

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	27	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	6	年間 （1年未満は 切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構・教授・片山伸彦							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構								
大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台								
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構								
岡山大学								
大阪府立大学								
名古屋大学								
横浜国立大学								
東京大学								

⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2－4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）
拠点機関	3	1	5	0	0	9	
協力機関・協力研究者	15	13	11	16	0	55	3
合計	18	14	16	16	0	64	3

⑧手引2－4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
英国・ケンブリッジ大学・応用数学理論物理学研究科・研究員	理論宇宙物理学	日本で推進している LiteBIRD(R-2)とSimons Observatory(R-3)実験の共同研究者であり、「ディレンジン グ」という重要な観測手法の世界的な権威である。研究組織に参加してもらうことにより、より一層研究が前進する。	日本側参加研究者として、研究進捗状況に応じ、スカイプなどで議論を行っている。またイギリスにて直接打ち合わせを行う予定であり、一体的な協力体制が確立されている。

イタリア・ローマサピエンツァ大学・物理学科・教授	実験宇宙物理学	LiteBIRD(R-2)計画において拠点機関が担当している半波長板システムの世界的権威であり共同研究を行う事により研究が進む。	日本側参加研究者として、研究進捗状況に応じ、スカイプなどで議論を行っている。またイタリアにて直接打ち合わせを行う予定であり、一体的な協力体制が確立されている。
イタリア・ミラノ大学・天文学科・教授	実験宇宙物理学	LiteBIRD(R-2)計画において拠点機関が担当している半波長板システムの世界的権威であり共同研究を行う事により研究が進む。	日本側参加研究者として、研究進捗状況に応じ、スカイプなどで議論を行っている。またイタリアにて直接打ち合わせを行う予定であり、一体的な協力体制が確立されている。

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳		金 額 (単位:円)	備 考
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	1,080,111	
	外国旅費※1	11,565,375	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	1,727,639	
	その他経費	338,341	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	1,128,534	
	計	15,840,000	
業務委託手数料		1,584,000	研究交流経費の10%（1円未満切捨）。消費税額は内額とする。
合計		17,424,000	

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

該当なし					
③ 日本側 の 旅 費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）		12,645		
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）		日本→日本以外の渡航	0	
			日本以外→日本の渡航	0	
			日本以外→日本以外の渡航	0	
④ （相手国側のみ） （単位：千円） （千円未満切捨て）	日本または相手国→日本の渡航		（左記のうち、 参加研究者の 旅費の総額 （単位：千円） （千円未満切捨て）	日本または相手国→日本の渡航	
	日本又は相手国→相手国の渡航			日本又は相手国→相手国の渡航	
	日本または相手国→第三国の渡航			日本または相手国→第三国の渡航	
	第三国→日本の渡航			第三国→日本の渡航	
	第三国→相手国の渡航			第三国→相手国の渡航	
	第三国→第三国の渡航			第三国→第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤（B型のみ）中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合（交流経費の５％以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
総額（単位：千円）	手引２－６記載の要件を満たす旨の事由説明	
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)（単位：千円、千円未満切捨て）		
全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
49,655	5	9,931

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型							
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→				
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目 実施年度に ○を付ける ↓	2年目 実施年度に ○を付ける ↓	3年目 実施年度に ○を付ける ↓	A型のみ	
			4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓			
R 1	地上観測による研究プロジェクト POLARBEAR の研究	長谷川 雅也・高エネルギー加速器研究機構・研究機関講師	○	○	○	○	○
R 2	宇宙空間からの観測による研究プロジェクト LiteBIRDでの研究	石野 宏和・岡山大学・教授	○	○	○	○	○
R 3	Simons Observatoryでの研究	田島 治・京都大学・准教授			○	○	○
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引 6-3 変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）							
2019年度はPOLARBEAR実験ではチリと米国に多数の若手を派遣した。チリではアタカマ高地において新型受信機の設置と運用開始の作業を行い、米国では年一回のグループミーティングに参加し、議論を行った。LiteBIRD実験は、B mode from Spaceの直前にグループミーティングを行い、各国拠点・協力期間のメンバーが一同に会して議論を行った。Simons Observatory実験に関しては、年一度のグループミーティングを行なった。その他若手をミラノで開催された第17回Low Temperature Detector国際会議、米国で行われたSPIE会議に多数送り出し、各国拠点・協力機関より集った研究者達と議論を行なった。							

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））
S 1	B mode from Space (宇宙からのBモード)日本学術振興会・研究拠点形成事業	B-mode from Space	ドイツ・ガルヒンク・Max-Planck-Institut für Astrophysik	2019年12月16日～19日（5日間）
セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引 6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）				
セミナーはドイツ・ガルヒンクのマックスプランク天体物理学研究所で開催された。100名以上の参加者、拠点研究者3名を含む15名以上の招待講演者、13名の拠点研究者50名以上の口頭・ポスター講演者があった。 会議のURL: https://www.mpa.mpg.de/~komatsu/meetings/bmode2019/ 拠点研究参加者の一人は、ベスト・ポスター賞を受賞した。会議中には、講演の他、議論する時間が沢山あり、若手研究者が海外の著名研究者と交流を深めることができた。				
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引 2-7（7）参照のこと。）				
該当なし				
④該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引 4-4（1）①参照のこと。）				
該当なし				

4. 研究交流状況

事業の型 A 型								
①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。）								
国名（派遣先） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	ドイツ（Max-Planck Institute for Astrophysics）	3		1	5		9	
2	フランス（Universite Paris Diderot）		1				1	
3	チリ（POLARBEAR実験サイト）		1	3	7		11	
4	アメリカ（University of California, Berkeley）	1	1	3	6		11	
5	アメリカ（ペンシルバニア大学）			1			1	
6	イタリア（第三国）（ミラノ大学）			1			1	
計		4	3	9	18	0	34	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4～4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2～6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
第三国の参加研究者との交流のため								

②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	該当なし						0	
計		0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4～4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2～6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）										
国名（派遣元）		国名（派遣先）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	該当なし								0	
計				0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4～4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2～6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）										
該当なし										

④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	フランス		1	2			3
2	ドイツ	1					1
計		1	1	2	0	0	4

⑤日本→海外の渡航数（相手国経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣先）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	該当なし						0
計		0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名（和文）	米国
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：カリフォルニア大学バークレー校 英文：University of California, Berkeley	
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 （英文）	Physics Department・Professor・Adrian Tae-Jin LEE
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：カリフォルニア大学サンディエゴ校 英文：University of California, San Diego	
和文：コロラド大学 英文：University of Colorado	
和文：スタンフォード大学 英文：Stanford University	
和文：アメリカ航空宇宙局 英文：National Aeronautics and Space Administration, NASA	
和文：ローレンスパークレー国立研究所 英文：Lawrence Berkeley National Laboratory	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	4	0	0	0	0	4	
協力機関・協力研究者	2	0	4	0	0	6	
合計	6	0	4	0	0	10	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）						※参考： 日本側研究交流経費 ¥15,840,000
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	NSF Astronomy	Mid-Scale Innovations Program in Astronomical	5,300	2021/3/31	USD	106	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	NSF Astronomy	Mid-Scale Innovations Program in Astronomical	1,060	2021/3/31	USD	106	
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	NSF Astronomy	Mid-Scale Innovations Program in Astronomical	14,840	2021/3/31	USD	106	
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×							
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		21,200				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名（和文）	カナダ
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：マギル大学 英文：McGill University	
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 （英文）	Department of Physics・Associate Professor・Matt DOBBS
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：ダルハウジー大学 英文：Dalhousie University	
和文：トロント大学 英文：University of Toronto	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	1	1	0	3	
協力機関・協力研究者	1	0	1	0	0	2	
合計	2	0	2	1	0	5	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	Canadian Institute for Advanced Research	Cosmology and Gravity Group	1,275	2021/3/31	C A D	85
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	Canadian Institute for Advanced Research	Cosmology and Gravity Group	425	2021/3/31	C A D	85
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	Canadian Institute for Advanced Research	Cosmology and Gravity Group	8,925	2021/3/31	C A D	85
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		10,625			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名（和文）	チリ
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：チリ大学 英文：University of Chile	
③コーディネーター所属 （英文）	Physics Department・Professor・Luis CAMPUSANO
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：カトリカ大学 英文：The Pontifical Catholic University of Chile	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	2	0	0	0	3	
協力機関・協力研究者	0	1	1	0	0	2	
合計	1	3	1	0	0	5	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）		研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット				研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）		※参考： 日本側研究交流経費 ¥15,840,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	CONICYT	PIA Anillo	318	2021/3/31	USD	106
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	CONICYT	PIA Anillo	212	2021/3/31	USD	106
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	CONICYT	PIA Anillo	530	2021/3/31	USD	106
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		1,060			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名（和文）	フランス
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：国立科学研究センター 英文：National Center for Scientific Research	
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 （英文）	Astroparticle and Cosmology Laboratory・Research Director・Jacques DELABROUILLE
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：パリ第6大学 英文：University of Paris 6	
和文：パリ第7大学 英文：University of Paris 7	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	6	2	0	0	0	8	
協力機関・協力研究者	1	1	2	0	0	4	
合計	7	3	2	0	0	12	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）		研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）						※参考： 日本側研究交流経費		¥15,840,000
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1 単位に 相当する円貨額）			
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1									
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×									
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	The French National Research Agency	N/A	387	2021/3/31	E U R	129			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×									
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	The French National Research Agency	N/A	258	2021/3/31	E U R	129			
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	The French National Research Agency	N/A	645	2021/3/31	E U R	129			
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×									
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		1,290						

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名（和文）	ドイツ
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：マックスプランク天体物理学研究所 英文：Max-Planck Institute for Astrophysics	
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 （英文）	Physical Cosmology Division ・ Director ・ Eiichiro KOMATSU
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	2	0	3	0	0	5	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	0	3	0	0	5	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費		
					¥15,840,000		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	Max Planck Society	Discretionary funds	12,900	2021/3/31	E U R	129
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	Max Planck Society	Discretionary funds	645	2021/3/31	E U R	129
(5)相手国側研究者の研究経費	○	Max Planck Society	Discretionary funds	1,935	2021/3/31	E U R	129
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		15,480			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。